

Topic 69

ニューヨーク市のサステナビリティ計画（その1）

お疲れ様です。環境メルマの坂野です。

サステナビリティの観点から、ニューヨーク市が取り組むべき課題と目指すべきゴールを示した“PlaNYC”。住宅問題、交通渋滞、オープンスペース、エネルギー、交通、水、大気、ブラウンフィールド、水路、気候変動、という幅広い課題について設けられたそれぞれのゴールをみると、NYCのなかなかの意気込みが感じられます。

ブラウンフィールドについては、「ニューヨーク市のすべての汚染地をきれいにする（Clean up all contaminated land in New York City）」というゴールが掲げられています。実現に向けてとりくむ具体的な内容は、次の12です。

従来のブラウンフィールドプログラムをもっとスピーディーに、かつ効率的にする。

- 1) 浄化のプロセスをスムーズに進めるために、調査現地で分析をする。
- 2) ニューヨーク市の浄化のために、ガイドラインをつくる。
- 3) ブラウンフィールドの計画および再開発事業を促進するために、市にオフィスを設置する。

よくなったプログラムへの参加をもっと増やす。

- 4) 現在の州のブラウンフィールド浄化プログラム（BCP）と一っしょにやれる部分をもっと増やす。
- 5) すべての追加的な浄化を監督する市のプログラムを立ち上げる。
- 6) 修復作業にかかる費用を低くするためのインセンティブを提供する。

ブラウンフィールドの再開発事業にコミュニティがもっと関わるように後押しする。

- 7) 州に対して、コミュニティが主体となった再開発事業に助成金を出すように後押しする。
- 8) ブラウンフィールド機会地域（BOA）の計画に参加するためのインセンティブを提供する。
- 9) ブラウンフィールド再開発についてコミュニティを教育して、すそ野を広げる努力をスタートする。

浄化していないサイトを見つける。

- 10) 潜在的なブラウンフィールドを見つけるために、ニューヨーク市をカバーする過去の土地利用のデータベースを作成する。
- 11) ブラウンフィールドの再開発をもとめる不動産所有者の責任を限定する。

今回は1～3について、PlaNYC

(http://www.nyc.gov/html/planyc2030/downloads/pdf/report_brownfields.pdf) を参考に、簡単に説明します。

■1について

NYCは、「Triadアプローチ」とよばれる調査の進め方を、2箇所ですべて試行するようです。土壌汚染の調査は、通常、現地で採取したサンプルを実験室で分析した結果を見てから、対策しなければいけない範囲や浄化の方法を決めていきます。つまり、調査してから考える、というアプローチで従来は行っていると考えてください。一方のTriadは、考えながら調査するアプローチです。時間がかかる実験室での分析ではなく、現地でスピーディーに分析をして、次のサンプリング場所を決め、汚染の範囲を絞込みします。分析の精度は下がりますが、意思決定にかかる時間を相当短縮できます。従来の方よりも、少々お金がかかると指摘されていますが、調査を繰り返して、むやみに時間をかけるよりもよい、と考えられています。

もともと、連邦（国）は、Triadアプローチを、全米に10あるRegionのそれぞれで年1つは実施してほしいという意向を持っていましたが、NYCはNY州と一っしょになって、1年で2つ試行することになるわけですから、ちょっと先取的な取り組みといえるのではないのでしょうか。

■2について

NYCの土壌の現状をきちんと調べて、NYCに合ったスタンダードをつくります。「都市部の土壌に求められる機能は、郊外の土壌に求められる機能とは異なっている」という理屈は、それなりに理解されているようですが、実際には、ケースバイケースのネゴになってしまい、時間ばかりがかかってしまうということが問題視されています。NYC用のスタンダードができれば、「すべての汚染地をきれいにする」という目標も達成できるのでしょうか。

このほかにも、都市の土地の20%に埋められているらしい建物の解体部材や浚渫砂の再利用方法や、地下の汚染源から上がってくる気体状の有害物質の対応方法について、整頓を行うようです。

■3について

ブラウンフィールドに関わるスタッフは、人数も少ない上に、部署部署に散らばっている。これを集約して、環境修復室（Office of Environmental Remediation）を立ちあげ、州と連携し、市の関連する部署の機能を最大限に引き出し、計画、教育、プロジェクトマネジメント、公共としての支援をおこなう、という点がミソのようです。市の関連する部署とは、経済開発公社、都市計画局、健康精神衛生局、環境保護局です。

新しいレベルのサービスを、コミュニティーや開発事業者に提供する、とも書かれています。また、ブラウンフィールドは州の事業、という色合いが強いせいもあるので、州に対して、もっと陣容を充実してほしいとの働きかけも行うようです。

続きは、この次に。

坂野でした (banno@ers-co.jp)